

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

I 学校教育に関する事務

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
1	小・中学校 管理事業	<p>○安心・安全な学校教育環境の整備（修繕、改修工事） 【小学校】屋外階段塗装、体育館暗幕取替、自動火災報知機設備、職員室床、職員用トイレ（ウォームレット）等 【中学校】校舎内壁面塗装、消火栓ポンプ、職員室受付窓、旧購買室入口、渡り廊下雨樋設置 等</p> <p>○感染症対策の継続（自動検温器、手指消毒、空気清浄機等）</p> <p>○光熱水費の状況 ・小学校▶R3:2,614千円 R4:3,783千円 R5:3,932千円 ・中学校▶R3:2,701千円 R4:3,626千円 R5:3,621千円</p> <p>○スクールサポートスタッフ雇用（小学校1名 中学校1名）</p>	<p>○児童・生徒が安全かつ安心して学習できる環境づくりを目指し、学校事務担当者と教育委員会とで構成するスクールサポートセンターで互いの情報共有を図りながら、計画的に学校の施設整備を行っている。</p> <p>○毎年8月に実施する施設設備の点検により、学校と教育委員会とが現状を把握し、安全性や緊急性を考慮して修繕計画を立てている。こうした仕組みを継続しながら、計画的な環境整備に努めることとする。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類となった後も、校内での衛生管理や感染症対策を継続し、児童生徒の健康管理や快適な学習環境維持に心がけている。</p>
2	小・中学校 教育振興事業	<p>○知力・徳力・体力の育成 ・派遣指導主事の配置 ・学習支援員の配置 ・家庭学習の習慣づくり ・体力向上支援事業</p> <p>○個に応じた教育の充実 ・にこにこサポート事業の活用（県非常勤講師の配置） ・生活支援員の配置 ・通級指導教室の充実 ・専門機関との連携（SSW、SC）</p> <p>○満足度の高い学級づくり ・Q Uアンケートの実施</p> <p>○就学に関する援助（9月現在） ・準要保護 小学生25名（17世帯） 中学生8名（7世帯） ・特別支援 小学生 2名（2世帯） 中学生1名（1世帯）</p>	<p>○知力・徳力・体力をバランスよく育成することを目指し、少人数であることを活かしたきめ細かな取り組みを行っている。学習支援員の配置を継続し、今後も基礎学力向上のための取り組みを行っていく必要がある。</p> <p>○児童生徒の学校生活における満足度を把握するため、QUアンケートを実施しており、この結果の活用や学級経営に関する研修会等の実施などにより、よりよい学級集団づくりに取り組む。</p> <p>○個に応じた教育支援として、通級指導教室の充実、生活支援員の配置に取り組んでいる。課題を抱える児童生徒に対しては、SCやSSWを活用するなど、今後も専門機関との連携を密にし、個に応じた教育の充実を図っていくこととする。</p> <p>○教育ビジョンの推進のため、関係機関と連携した具体的な取組が必要。学力育成や地域との協働活動推進など、協議の場を設ける。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
3	小・中連携教育振興事業	<p>○よりよい学級集団づくり「学び合い研修」 講師：「学びの共同体」全3回実施 第1回、第2回：佐藤彰雅氏 第3回：藤木文博氏</p> <p>○小中合同研修会（教職員対象）8月24日（木） 講師：竹内 吉和 氏 （竹内発達支援Co. 代表 特別支援教育士スーパーバイザー） 『発達障害の理解と対応や支援』 参加者：32人</p>	<p>○学び合いによる学級集団づくりについては、管理職をはじめとする教員の異動により、目的の共有や理解が深まらない状況があり、当該研修会の意義を改めて確認する必要性を認識した。このため、「学び合い」に取り組む優良校である岡山市立西大寺小学校・中学校を教職員とともに視察し、共通理解を深めた。</p> <p>○夏季休業期間中に開催する研修会は、教職員のニーズからテーマを決定している。令和5年度は対面型の研修を実施することができ、保育所や高校からも参加してもらうことができた。町立学校として同じテーマに臨み、意見交換をする機会として、今後も継続していくものとする。</p>
4	子ども読書活動推進事業	<p>○学校図書館への司書配置による機能強化 県「学びのサポーター補助金」活用（補助率2/3 上限1,120千円） 配置人員：小学校1名、中学校1名</p> <p>○「学びのサポーター制度」研修会参加（継続） A：学校司書の基本的な業務 図書の貸し出しや配下等の基本的サービス など B：これからの学校司書に求められる業務 言語能力育成を目指した読書活動の推進 授業のための図書資料の収集・整理 など C：<u>児童生徒1人1人に寄り添う業務</u> <u>本を介した心の居場所づくりや人間関係づくり</u> <u>個別の学習支援</u> <u>知識や考えを広げる図書の紹介</u> <u>ICT機器を活用した学習支援</u></p>	<p>○調べ学習などで図書館を活用する場面が増えている中、学校司書と教科担当との連携により、専門的な知識を活かした学習支援の充実を図ることができている。</p> <p>○両校の図書館はレイアウトや季節の展示などに工夫を凝らし、児童生徒が立ち寄りやすく利用しやすい場所となっている。中学校では「学校図書館だより」の発行によって、生徒への情報発信がしっかりとされている。</p> <p>○島根県が進める「学びのサポーター制度」については、各校で児童生徒や教職員のニーズに応じた取組が進められている。本町では「児童生徒一人ひとりに寄り添う業務」を担う学校司書として、県が主催する研修会に積極的に参加している。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
5	スクールバス 運行事業 (高校支援バス)	<p>○小中学校の児童生徒ならびに地域住民の交通手段の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保有台数 6 台 (令和6年3月31日現在) ・業務委託契約 (有)優美運送 R5. 4. 1～R6. 3. 31 ・旧まげなタクシー車両 (ハイエース) 移管 ・安全運転講習 (70歳以上3名) 継続 <p>○島根中央高校支援のための通学バスおよび部活動送迎については、車両管理は教育課で、運行管理はまちづくり推進課が所管。</p>	<p>○安全で適切なスクールバス運行管理に努め、委託事業者と連絡を密に取り合って業務にあたる。特に災害時の運行に関しては、状況の確認等を慎重に対応する必要があることを共通理解すること。</p>
6	外国青年 招致事業	<p>○職務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における外国語授業の補助、国際理解教育の補助 ・外国語教材作成補助、外国語能力コンテスト等への協力 ・外国語科教員等に対する現職研修への補助 ・特別活動、課題活動への協力 ・地域における国際交流活動への協力 (国際交流協会、英会話教室、保育所訪問など) <p>○小学校 ラム・クリスティン(アメリカ) R5. 7. 31～R6. 7. 30 (1年目)</p> <p>○中学校 メロディ・モンパー(アメリカ) R4. 5. 16～ (2年目)</p>	<p>○小中それぞれに専属のALTを配置できていることは、他市町村と比べて恵まれた環境であり、町の魅力であると感じる保護者の意見もある。この環境を活かし、また高校のALTとも連携した外国語活動の充実に努める。</p> <p>○地域における国際交流にも尽力しているが、コロナ禍以降の保育所やサボセンでの活動ができていない。ALTには活動意欲があるので、効果的な活動について関係者と協議すること。</p> <p>○新規ALTの受入れ準備や任期満了時の帰国手続き、また本町滞在中の生活支援や精神面でのサポートなど、担当者の負担が大きい。ALTと担当者とのコミュニケーションが重要であることを前提に、地域の英会話教室や国際交流協会の協力を仰ぐこと。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
8	学校給食事業	<p>○学校給食センターの運営と安全な給食の提供 (平成26年8月運用開始) 業務委託：ドリームかもん(令和4年4月～令和7年3月) ＜令和5年度食数 合計40,255食＞ 小学校25,847食 中学校12,780食 その他1,628食</p> <p>○物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 1,951,850円 (2月～3月分給食費無償)</p> <p>○食材費高騰分補助金 1,846,941円(町単費)</p> <p>○令和6年度から児童生徒の給食費を完全無償化とすることに決定。</p> <p>○単価見直し 小学生260円→320円 中学生290円→350円</p>	<p>○川本小学校所属の栄養教諭により、バラエティ豊かな給食の献立が提供されている。給食を通じた食育の取組がなされている。</p> <p>○学校給食センターは順調に運営されており、引き続き栄養教諭との連携により調理場の衛生を保ちながら、安心安全な給食の提供を心がける。</p> <p>○物価高騰により「食材費＞給食費」の状況が続いている。物価高騰分については給食会への補助金支出により保護者負担の増を抑えている。</p> <p>○県内でも先進的は少子化対策・子育て支援策として、令和6年度から給食費完全無償化が決定。この際、現状に合わせて給食費の単価が改定されたが、今後の物価変動を鑑みて、単価設定については毎年協議する必要がある。</p>
9	教育環境 魅力活性化事業	<p>○多様な経験に挑戦できる環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢センセイ事業(小5、中2) 11/16 ビーチサッカー 茂怜羅オズ選手 ・「自らの学び」応援事業 <ul style="list-style-type: none"> *英語検定(中38人 高27人) *英検ジュニア(小23人) *漢字検定(小35人 中53人 高3人) *算数・数学検定(小19人 中2人 高3人) ・かわもとサマーチャレンジウィーク7/24～28 <ul style="list-style-type: none"> *5日間の日帰りプログラム 対象小4～小6 *参加者(延べ)小学生79人 *ボランティア(延べ)51人(中5人 高6人 大4人) <p>○ICT支援員配置 2名 集落支援員制度活用</p>	<p>○中学校では英検と漢字検定に全校で取り組んでいるが、以前よりも受検者が減少傾向にある。学習意欲向上のためにも、学校と連携した取組を進めること。</p> <p>○昨年度から漢字検定と算数・数学検定を補助対象とし、独自会場を設けて検定を実施しており、受検者が増加している。町全体が「学び」を応援するような気運を高めるよう、周知方法や実施時期を工夫するなどして、この取組の継続と定着を図る。</p> <p>○体験活動として実施しているサマーチャレンジについては、多様な体験と多世代交流が実現する人気企画であり、社会教育係が総出で実施している。熱中症対策や安全管理の徹底のため、運営マニュアル等を作成するなど、十分な準備をすること。また、単なる体験イベントでなく、社会教育事業としての目的を意識した運営に努めること。</p> <p>○今年度からICT支援員を各校1名ずつ配置。学校でのICT活用において教員のサポート体制を整えた。ICT支援員としての研修参加や他校の事例収集などの資質向上の取組も進める必要がある。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

Ⅱ 社会教育に関する事務

	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
10	姉妹都市 交流事業	<p>○海洋スポーツ交流会…14人（川本町6人 坂町8人）8/2-3</p> <p>○子どもスキー交流会…14人（川本町3人 坂町11人）2/3-4</p> <p>○団体交流…活動実績なし</p>	<p>○4年ぶりに夏の交流を実施。両町からの参加人数のバランスとしてはよいが、全体的に減少している。</p> <p>○3月に坂町担当者と今後についての協議を実施し、両町の現状と課題を共有。令和6年度は情報交換をしながら現在のスタイルを継続し、令和7年度の予算要求までに再度魅力あるプログラム構築をすることで合意。互いに課題意識を持って継続して取り組むこと。</p>
11	次世代育成 支援事業	<p>○川本町子育てサポートセンターの運営委託 川本町社会福祉協議会（R5.4.1～R6.3.31）</p> <p>放課後居場所事業 利用人数(延べ) 9,467人 開設日数 241日 平均利用人数 39人/日</p> <p>在宅児の居場所 利用人数(延べ) 365人 開設日数 54日（火・木） 平均利用人数 7人</p> <p>○夏休み企画 サポセン・フライDAY（2回）社会教育係主催</p>	<p>○子育てサポートセンターに対するニーズは高く、小学校児童の8割以上が登録している。</p> <p>○学校内で放課後居場所事業を実施するため、委託先と学校との連絡調整を密にする必要があることから、学校教育係を窓口とした。連絡体制が一元化されたことにより、昨年度に比べるとスムーズな運営がなされたが、利用者に不利益が生じないよう定期的な情報交換や学校行事前の事前協議などを徹底する必要がある。</p> <p>○保護者から活動の充実を求める声があるが、工夫しながら徐々に各種事業を実施していることなど、保護者に状況が伝わるような情報発信に努める。また受託事業者と協議し、社会教育とも連携したプログラムの実施などを検討する。</p>
12	はたちのつどい	<p>○令和5年8月14日開催 対象者：平成14年4月2日～平成15年4月1日生 出席者：16名（対象者40名）</p> <p>○民法改正により令和4年4月1日から成人年齢が18歳となったが、20歳までは法的な制限があること、18歳時点での式典は対象者の負担となることが考えられることから、対象の年齢については変更せず、名称を「はたちの集い」として開催する。</p>	<p>○当日参加できない該当者や保護者のために、オンライン（ZOOM）で会場の様子を配信した。双方向の通信については使用機材や技術面での研究が必要。</p> <p>○一方で、オンラインの取組によって会場の出席者減少に繋がる懸念もある。ふるさとで顔を合わせて二十歳を祝う機会となるべく、出席案内を丁寧にする</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
13	人権・同和教育推進事業	<p>○研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/30 川本町同和教育推進協議会総会・研修会 講師:①小村幸行氏「同和問題の解決に向けて」 ②北山亜紀子氏「パートナーシップ制度について」 ・12/7 人権を考えるつどい 講師:佐倉智美氏 「あたりまえにそこにいるLGBTs ～知ることから始める性の多様性～」 作品展示あり（保育所、小学校、中学校、地域） <p>○川本町人権教育・啓発推進基本計画の啓発 ○人権・同和教育担当者会（年3回）</p>	<p>○「川本町人権教育・啓発推進基本計画」に基づき取組を進めるなかで、事業所や民間団体等への働きかけが不足している。研修会への参加を促すなど、啓発活動に工夫が必要。</p> <p>○幅広い世代に人権意識の高まりを訴えるため、身近なテーマを選んだり、地域単位で人権サロンを開催するなど、計画的に実施していく必要がある。</p> <p>○町広報紙に毎月掲載する「人権フォトギャラリー」では、身近にある様々な人権課題をわかりやすく紹介できている。</p>
14	ふるさと教育推進事業	<p>○地域の「ひと」「もの」「こと」を取り入れたふるさと教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわもとぼかぼか親子プロジェクト（K-POP） 4/16 たけのこ掘り体験 11家族44名 ボランティア25名 6/10 スナッグゴルフ 4家族15名 10/21 パン作り体験 5家族16名 ボランティア2名 1/20 苔テラリウムワークショップ（図書館合同企画） 16家族27名 ・サマーチャレンジウィーク ・教職員のふるさとめぐり ・担当者会議（年2回） <p>○多世代対話活動「かわもとーく」 ①中学2年生×地域の大人 ②小学5年生×高校生</p> <p>○ジョブカフェ（かわもと暮らし主催事業） 中学1年生対象 自己理解と職業観の醸成</p> <p>○ふるさと人づくり推進事業 中高生のチャレンジ活動支援のための拠点運営（あそラボ）</p> <p>○関係人口拡大地域活性化交流事業 大学生インターンの受入れ1名→あそラボスタッフ</p>	<p>○公民館との連携や地域住民との関わりによって、児童生徒が地域への愛着や土地の歴史等の理解を深める機会を得ている。</p> <p>○あそラボの活動により、小中高の世代間交流と地域活動への参加が定着してきた。大学生の長期インターン1名を受け入れ、大学との連携の機会も得ることができた。</p> <p>○多世代対話活動では、中学生と地域の大人の組み合わせのほか、小学生と高校生の組み合わせでも実施した。小学生にとっては少し先の自分の姿をイメージし、身近な存在への憧れや将来への動機づけのきっかけとなった。学校ともよく連携し、目的を共通理解しながら次年度以降も継続して取り組む。</p> <p>○ふるさと教育推進事業全体として、幅広い世代へのアプローチができている。関係団体と連携する際には、事業の目的とそれぞれの役割を明確にし、地域全体で子どもを育む体制づくりを進めていくこと。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
15	公民館活動	<p>○公民館区の特性を生かした学習機会を提供</p> <p>【中央公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悠々大学 50歳以上の町民を対象 生活課題等を踏まえた学習機会の提供（全8回） ・ぶっくんdeリフレ講座（図書館連携） ・歴史講演会 11/25 ・サマーデイキャンプ（魅力化事業・ふるさと教育事業） <p>【西公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋力トレーニング教室(月2回) ・ニュースポーツ体験(月1回) <p>【北公民館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツ体験（月1回） ・まちセンマルシェ <p>○健康福祉課との協働事業（サロン事業）</p> <p>コーヒーの日など</p>	<p>○子育て世代を対象とした講座を企画し、託児を設けるなどしてできるだけ参加しやすい環境づくりに努めたところ、各回とも参加者から好評であった。また、講師として新たな地域人材の発掘にもつながった。</p> <p>○コロナ禍で中止してきた事業（サケの観察会、西公民館発表会など）を今後も継続するかどうか、継続するのであればどのように実施していくのか、公民館区の住民とも協議して方向性を示すこと。</p> <p>○公民館活動とスポーツ活動推進との連携により地域でのニュースポーツの普及に取り組んできた。その成果として、参加者が2～3名だったのが10名を超える程度まで増加した。毎月の開催を楽しみにする声もあり、住民の集いのきっかけづくりとしても評価できる。今後は、さらに進めて「住民主体の活動」に発展するよう、事業を継続する。</p>
16	図書館事業	<p>○年間貸出人数 3,399人（前年比116.6%）</p> <p>年間貸出冊数 13,272冊（前年比74.0%）</p> <p>○読書普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくおはなし会(春・夏)小学生・在宅児 延べ41人 ・図書館お楽しみDay 保育園児・在宅児 延べ42人 ・絵本の時間(サポセン)月1回 在宅児 延べ74人 ・ブックスタート・フォローアップ (4・5ヶ月, 1歳半, 3歳) ・マタニティ・ブックスタート <p>○移動図書館、配本サービス</p> <p>○読み聞かせボランティア団体 3団体</p>	<p>○季節に応じた展示やカウンターでのサービスなど、来館者増に向けた取組がよくされている。</p> <p>○町民の学習意欲に応える地域の文化教養の拠点施設となるべく、今後も利用者のニーズに対応し、親しみやすい図書館運営を行う。</p> <p>○読書に関するアンケート結果では、小中学生と読書との関係が薄くなってきている。図書館協議会においてこの傾向と対策を分析し、令和6年度に策定する「第4次川本町子ども読書活動推進計画」に反映すること。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
17	社会体育事業	<p>○スポーツ大会の開催・参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/11 川本町一周駅伝競走大会（参加18チーム） ・12/10 第32回浜田益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝） ・春夏秋冬を楽しむかわもとウォーキング（健康福祉課共催） <p>5/14笹遊里周辺 30人参加 11/18三原まちづくりセンター周辺 20人参加 1/21運動公園管理棟周辺 14参加 3/17イズモコバイモ群生地周辺 43人参加</p> <p>○体力向上事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツの普及、指導（ニュースポーツ体験） <p>○子どもの体力向上事業 スポレク広場10/14 会場：西体育館 参加者：125人</p> <p>○3/2 スポーツ講演会 講師：ワールドカップ予選日本代表（九州ハニーズ所属） 川端友紀氏 檜岡美和氏 小島也弥氏 午前中：体験教室65人 午後：講演会200人</p>	<p>○スポーツイベントの開催にあたっては周知期間を十分に確保するとともに、参加意欲を刺激するような仕掛けや観光協会等と連携して他のイベントに併せて開催するなど、参加者増に向けた取組を検討する必要がある。</p> <p>○子どもの体力向上事業については、スポーツクラブと連携したスポレク広場の第2回目を開催した。参加者数は昨年度より増加し、スポーツとの出会いの場づくり、親子で一緒に運動する機会創出につながった。次年度も継続する。</p> <p>○スポーツ推進員が各事業に積極的に関わる流れができてきた。意見交換を重ね、スポーツ推進員の役割を共通理解して組織的に事業に取り組む体制づくりを図る。</p> <p>○スポーツ講演会は実技指導もあり関係者に好評であった。町外からの参加も多くあり、関係団体との連携を密にした成果。今後も様々な種目にスポットを当て、次世代の育成に貢献するような取組を継続する。</p>
18	体育施設管理	<p>○体育施設の管理運営 川本運動公園 （町民球場、町民プール、第4種陸上競技場） 町民体育館、三谷体育館</p> <p>○体育施設の利用状況 町民球場…160回（有料6回、免除154回） 町民プール…1,144人（有料816人 免除328人） 町民体育館（川本・西）…513回（有料16回、免除497回）</p>	<p>○町民の健康増進、生涯スポーツ振興のため、施設の維持管理を適切に行い、町民の利用を促進する必要がある。老朽化の進む施設が多いため、計画的な修繕計画を立てることが必要。</p> <p>○町民のスポーツ活動に対するニーズはより幅広くなっている。このため、体育施設の管理運営及びスポーツ事業を行う団体を育成・支援し、町の体育振興につなげる必要がある。</p> <p>○2030しまね国スポの軟式野球会場として、具体的なスケジュールを想定して情報収集や適宜予算協議を進めるなど、準備体制を整えること。令和6年度に実施される中央競技団体視察受入れにあたっては、教育課だけでなく関係各課ともよく連携し、計画的に進めること。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

Ⅲ 文化振興に関する事務

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
20	文化会館管理事業	<p>○悠邑ふるさと会館の利用件数（利用可能日数306日） 大ホール 135件（稼働率44%） マルチホール 183件（稼働率60%） 大会議室 159件（稼働率45%） 中会議室 251件（稼働率71%）</p> <p>○改修、工事 気中開閉器取替、ピンスポット、小便器自動水栓取替 等</p> <p>○特殊建築物定期調査 R5.5.22実施（3年に1回） 【指摘内容】基礎、外壁等のひび割れ、瓦の破損、鉄筋露出等</p>	<p>○会館施設利用においては、ほぼコロナ禍前の状態に戻り、利用者の責任において感染症対策を講じてもらうよう周知に努めた。</p> <p>○すこやかセンターの取り壊しにより社会福祉協議会が役場庁舎へ移転。この影響により、役場主催の会議や社協主催の会議、事業のための会議室利用が増加。</p> <p>○特種建築物定期調査により要是正と指摘された箇所については、優先的に取り組む箇所を協議し、計画的な改修に取り組むこと。</p>
21	文化振興事業	<p>○主催事業 ・大衆演劇 宝海劇団川本公演7/2 ・悠邑名画シアター6/17、9/23、3/3 ・宝くじ文化公演～オーケストラで聴くジブリ音楽～9/10 ・しまね映画祭11/18、優秀映画11/25-26 ・音楽座ミュージカル ワークショップ11/19 ・音楽座ミュージカル「シャボン玉とんだ宇宙までとんだ」12/3 ・ピアノ活用事業「私だけのスタインウェイ」3/23</p> <p>○支援事業 ・吹奏楽コンサート（中・高・楽団） など</p>	<p>○映画上映は作品選びが集客数に大きく影響する。ターゲットとする世代を念頭に、そのニーズに合った作品を選び、集客に努める。</p> <p>○施設の優位性（優れた音響設備や宿泊・飲食機能を併設等）の情報発信に努め、観光協会や町内事業所と連携して、新たな利活用を促進する。</p> <p>○悠邑ふるさと会館の建設から27年経過し、文化振興事業は、当初の目的であった文化芸能の普及啓発は一定程度達成したものとし、息の長い文化振興を意識した取組にシフトしていく必要がある。大規模な催しを実施する場合は、国等の補助の活用など、財源確保を含めて企画提案すること。</p>

令和5年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

川本町教育委員会

No.	事業名	事業内容・実施状況等	総合点検・評価
22	音楽振興施設管理	<p>○サウンド・アミュージウム（かわもと音戯館） 指定管理者：安仲有限会社（R4.4～R6.3）</p> <p>○令和5年度利用実績 レストラン 5,034人（前年比141%） ホテル 2,515人（前年比124%） プール・ジム 11,219人（前年比110%） その他 169人（前年比146%）</p> <p>○令和6年度から産業振興課へ所管替え</p>	<p>○プールについては継続することが決定し、音戯館そのものは町の観光資源と位置づけて産業振興課へ所管替えとなった。とはいえ、悠邑ふるさと会館と隣接していることや学校プールとしての活用を継続することなどから、今後もよく連携していく必要があることを、指定管理者と所管課、教育課とで互いに共通理解すること。</p>
23	文化財保護	<p>○県指定文化財 2件 ・木谷「木谷石塔」 ・三原「丸山城跡」</p> <p>○町指定文化財 6件 ・南左木「正蓮寺楼門」「正蓮寺経堂」 ・谷戸「谷戸経塚」 ・谷戸「イズモコバイモ」 ・三俣「坂原文書」 ・市井原「全長寺文書」 ・三原「丸山城跡」</p> <p>○「石見小笠原氏史料集」販売冊数203冊（R5.3/31現在）</p>	<p>○「石見小笠原氏史料集」の完成を機に、県の指定文化財（史跡）である丸山城の環境保全に努め、史跡の文化的価値を高めると共に、調査研究の成果を広めていく。</p> <p>○文化財や町の歴史など、町民にその価値や意義を周知していくことが必要。公民館活動などと連携し、文化財をテーマとした生涯学習の視点からの取組を検討する。</p> <p>○町内の史跡等を再確認し、文化財としての価値あるものは指定や保存について審議会での検討を進める。</p>